

雑木林ファンクラブ 通信

住所: 〒247-0013 横浜市栄区上郷町 1562-1 「横浜自然観察の森」 Phone 045-894-7474

四方山話 その2

マツと人との結びつきが強く、マツ材の利用が沢山有り、我々の生活に関係していますのでその一部を紹介いたします。主に燃料として相当量が使用されていた。

1. 製鉄の話

「たたら製鉄」は炉の中に木炭と砂鉄を交互に入れながら三昼夜かけて精錬します。炉の底にたまった鉄のかたまり(けら)を、炉から外に出し、冷やします。1回の操業に砂鉄と木炭が同量投入され、炭の量は約10tから13tで、これは森林面積にすると1haに相当します。盛んであった江戸時代後半には、年間約60回程度の操業がおこなわれました、マツ炭を焼くにふさわしいマツの樹齢は30～50年とされます。したがって、一カ所のマツ炭焼くに必要な森林面積は1800～3000haになり、これらの加工工数、時間も機械化がない時代にどうやって生産したかを考えると気が遠くなりそう。木炭の主な原料はマツのほかにかし、クリその他の硬い広葉樹です。

2. 鋸鍛冶の話

マツ炭は日本刀、和包丁、鋏、そして鋸の製造工程になくてはならない熱源です。

木炭の木口組織を電子顕微鏡で拡大してみると、マツ炭は孔径が大きくて壁が薄い構造となっています。孔径が大きいほど、酸素が炭の内部に入りやすく、反応してできた一酸化炭素ガスの拡散も速いので火付きが良く、すぐに高熱が得られます。竹炭もマツ炭と同じ特性が考えられます、ナラ炭などは孔が小さく壁も厚いので、燃焼速度が遅く、一定温度で燃焼を持続し火持ちがよい特徴があります。

埼玉県川越市の中屋瀧次郎正義は江戸時代末期に創業した鋸鍛冶、5代目の伊藤守さんは、わが国でも僅かに残る鋸職人です。箱ふいごの取っ手を左足で器用に押しながら空気を送ると、眠っていたように見えたマツ炭がみるみる熾って900℃にもなります。板取した鋸を真っ赤に加熱し、打って形を引き延ばしていきます。鋸の板は薄く、温度が直ぐに下がってしまうため、2枚以上重ねて一緒に加熱して、交互に入れ替えながら厚さを調整します。コミ(柄に差し込む部分)の側は厚く、一番先端はすっと盛り上げ強度を持たせます。おおむめ、10枚の鋸を仕上げるのに、米袋3俵分の子割したマツ炭を使います。マツ炭の優れている点は、薄い鋸の全面を均等にむらなく赤らめることだと言います。使用するマツ炭は岩手県産のアカマツ炭です。手打ち鋸は、一般建築用もとより、奈良の斑鳩工舎など全国の宮大工から高い評価を得ています。マツ炭は法隆寺のような歴史的木造建築の修理を支える縁の下の力持ちです。



杉戸正直

先大津阿川村山砂鉄洗取之図

<http://gazo.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/kozan/emaki/10/index.html>

1. 9月の主な活動内容

- ① 8月20日(水) 11名:ハマツ子学校支援
- ② 8月23日(土) 13名:シラカシ伐倒、ZFC通信印刷・発送、臨時運営会議(午後)
- ③ 8月27日(水) 17名:暑気払会
- ④ 8月30日(土) 11名:シラカシ伐倒、懸案課題ミーティング(午後)
- ⑤ 9月3日(水) 8名:炭材作成、チェーンソー整備
- ⑥ 9月6日(土) 14名:シラカシ伐倒、炭材作成
- ⑦ 9月10日(水) 11名:シラカシ伐倒後片付け、炭材作成、炭小屋補修
- ⑧ 9月13日(土) 16名:クヌギ林斜面地草刈り、懸案課題ミーティング(午後)
- ⑨ 9月17日(水) 10名:粗朶柵作り、炭焼小屋補修、木工
- ⑩ 9月20日(土) 16名:クヌギ林斜面地草刈り、炭材詰め込み、炭小屋補修、運営会、「保全管理計画」勉強会

2. 運営会の報告

- ① 9月27・28日炭焼体験会担当者を以下の通り決定する。
:(担当者)吉田、工藤、兼武 (宿泊者)片岡、工藤、大越、赤羽、山口、橋本
(支援者)玉木、鈴木、杉戸、関根、武田、小島
- ② 「炭小屋下斜面地」・「アラカシ林」伐採計画の推進者を以下の通り決定する。
・片岡、大越、山田 (炭小屋下斜面地) ・赤羽、竹内、山口 (アラカシ林)
- ③ 10月19日森ボラ(幹事)の催しは草刈りとし、吉田代表のもと ZFC 直近入会者が担当することにする。
- ④ 11月6日の栄高校三世代交流会について、10月8日事前打ち合わせとともに当日の担当者を以下の通り決定する。
・吉田、佐野、藤原、張間、山田、関根
- ⑤ 11月22日(土)「森の作業体験」の運営案を協議。メインイベントの「草刈り」に「秋刀魚の炭焼き」をサブイベントとして詳細を更に検討することとした。

3. 10月活動予定

- ① 9月24日(水) 炭焼き体験会準備
- ② 9月27日(土) 炭焼き体験会、本窯・ドラム缶窯炭焼き・炭小屋下斜面地植生調査・製材・ZFC通信印刷発送
- ③ 9月28日(日) 炭焼き体験会本窯閉め
- ④ 10月1日(水) 炭小屋補修・アラカシ林植生調査準備
- ⑤ 10月4日(土) 池の上クヌギ林草刈り・アラカシ林植生調査・炭だし(本窯・ドラム缶窯)
- ⑥ 10月8日(水) シラカシ片付け、雑木伐倒整備・栄高校三世代交流会打合せ
- ⑦ 10月11日(土) 炭小屋下斜面地間伐対象物の調査、製材
- ⑧ 10月15日(水) 間伐材整理・東京ガス社員の炭小屋見学(含む17日)
- ⑨ 10月18日(土) 池の上クヌギ林斜面地草刈り・アラカシ林植生調査・運営会
- ⑩ 10月19日(日) 森ボラ幹事(草刈り)、ゴロ報印刷
- ⑪ 10月22日(水) クヌギ林斜面地草刈
- ⑫ 10月25日(土) 七区「トウネズ、ヤマモモ」伐倒・製材・ZFC通信印刷発送
・安全教育(6/28ロープワーク研修に参加された方はロープ持参方)
- ⑬ 10月29日(水) 七区「トウネズ、ヤマモモ」の後片付け

以上